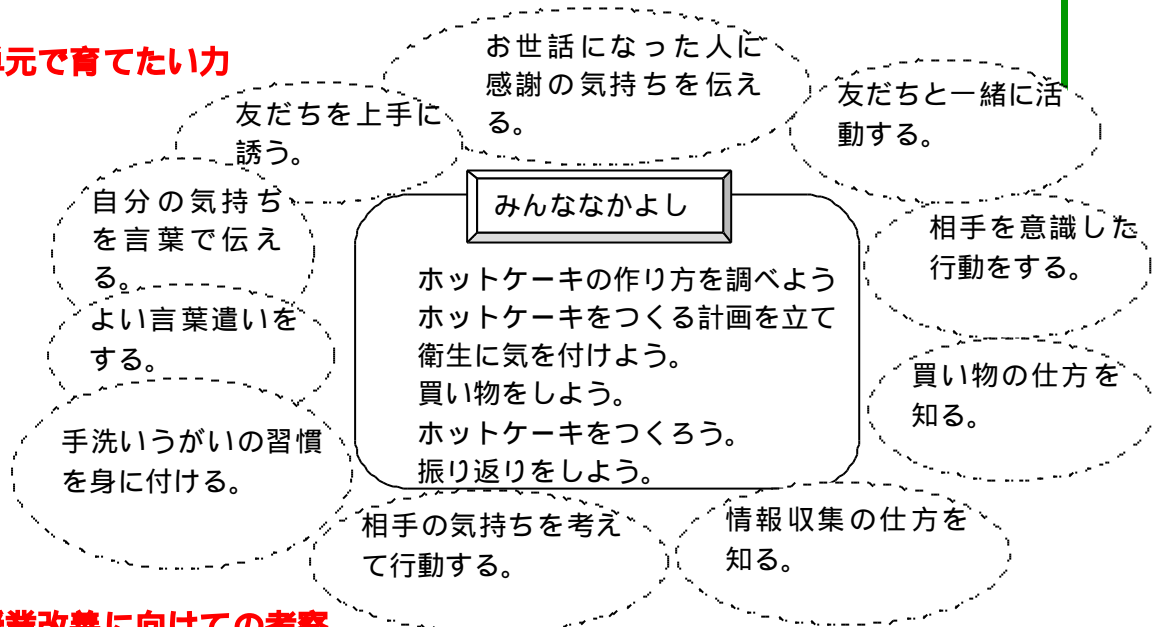


みんななかよし

～ホットケーキを作ろう！～

単元で育てたい力



授業改善に向けての考察

子どもの思いと教師の意図による単元立ち上げ

相手を意識して友だちとかかわれるようになって欲しいという担任の思いと、子どもたちのホットケーキ作りに対する思いを生かして単元を立ち上げた。単元の学習を通して、ホットケーキ作りの楽しさを味わうとともに、友だちと一緒に活動する楽しさも感じる事ができたと思う。

グループを意識した活動

「アンパンマンチーム」「食パンマンチーム」と名前をつけて二人組のグループを作った。ホットケーキ作りの作業（混ぜる、焼くなど）をグループで行なうことで、「手伝うよ。」「一緒にやろう。」「ぼくもやりたい。」などの言葉を使ってコミュニケーションを取れるようになってきた。グループ活動を通して、友だちに対する相手意識を高める事ができたと感じる。

視覚的な手がかり

自分たちの力でホットケーキづくりを行えるように、視覚的な手がかりを多く用いた。例えば、つくる手順を写真と共に教室に提示した。掲示物は、終わったら裏返ができるようにし、今何をするかを分かりやすくする工夫をした。児童によっては、作業の流れをその児童に合った写真や言葉で提示し、見通しがもてるようにした。また、振り返りの中からでてきた「よい言葉」（ありがとう・いっしょにやろう・てつだうよ など）も掲示し、必要な時に見られるようにした。視覚的な手がかりがあることで、子どもたちがお互いに声を掛け合いながら活動を進められたと思う。

ビデオを使った振り返り

ビデオで活動の内容を記録し、ビデオを見ながら振り返りを行った。「ほかの人の動きをみる」ことを意識しながら振り返りをしたところ、「さんが、いいこと言っているよ。」「さんお手伝いしているね。」「さんは～したかったんだな。」「～と言ってあげればよかったな。」など、良いところや頑張りたいことを具体的に挙げる事ができた。ビデオで客観的に振り返りを行ったことで、友だちに対する意識を高められたと思う。

目的をもたせることによって意欲や必要感を高める

「ホットケーキを作りたい。」という子どもたちの強い思いを生かして、単元を構成していった。ホットケーキを作るために、作り方を調べる・買い物の仕方を知る・お金の数え方を知る・はかりや計量カップの使い方を知るなどを行い、切実感をもって学習に取り組む事ができた。

